



Rokko Catholic Church Bulletin

カトリック六甲教会 教会報

2010

5

No.461



風のように生きる

助任司祭 片柳 弘史

イエスはニコデモに答えて言われた。『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。』(ヨハネ 3:7-8)

霊によって生きる者は、思いのままに吹く風のようにイエスは言います。聖霊に満たされて風のように生きる人、それは一体どんな人でしょう。

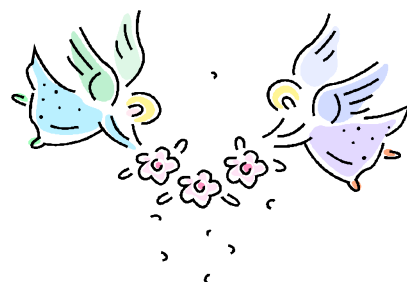
風は自由に吹き抜けます。決して一つの場所に執着したり、人間の思いを気にしたりすることがありません。ただ、吹くがままに吹くのです。そのように、霊に生きる人もただ神の御旨に自分のすべてを委ね、一つの場所に執着したり、人間の思いを気にしたりすることがありません。

高原の風は、自分を見せずに人々の間を吹き抜け、そのあとに爽やかさだけを残していきます。そのように、霊に生きる人も決して自分を主張することなく人々と交わり、去った後に爽やかさだけを残します。いつまでも誰かにしがみついたり、後に自分の記念碑を残したりすることはありません。

海に吹く風は、大海を行く舟の帆をいっぱい膨らませ、舟に力を与えます。そのように、霊に生きる人も広い世界の中で孤独な小舟のように漂う人々の心を愛の風で膨らませ、人々に生きる力を与えます。

わたしたちは風がどこから来てどこへ行くのか知りませんが、霊によって生きる人がどこから来てどこへ行くのか知っています。霊によって生きる人は、神の愛からやって来て、神の愛へと帰っていくのです。霊によって生きる人は、ただ神の愛から力を得、与えられた力を愛の奉仕によって神へと返していくのです。

わたしたちも、聖霊の息吹に満たされて風のように生きたいものです。



— 目に見える神の愛（秘跡） —

“七つの秘跡”については、すでに「教会のしおり」の中で記していますが、もう少し詳しく秘跡の内容について補足します。なぜなら、七つの秘跡はカトリック教会の“大切な宝”だからです。「教会のしおり」と合わせてお読み下さい。

主任司祭 松村信也



(第一回) キリストの愛のしるしである目に見える証（秘跡）

カトリック教会には、イエス・キリストの“愛のしるし”を目に見える形として表したものに「七つの秘跡」があります。この七つの秘跡（洗礼、堅信、聖体、ゆるし、病者の塗油、結婚、叙階）は、キリスト信者に豊かな恵みを与えるイエス・キリストからの愛の賜物です。秘跡は教会の信仰の表現として、福音と同じ内容を持ち、喜びと希望の「よいたより」の実現なのです。全ての秘跡は、キリストの制定による秘跡であり、秘跡に授かる者には“恵みと癒し”が与えられます。

1. ①洗礼の秘跡・②堅信の秘跡・③聖体の秘跡【①②③を入信の秘跡】

入信は、キリスト信者になる過程です。「Initiation」と呼ばれます。三つの秘跡、即ち「洗礼、堅信、聖体（感謝の祭儀）」によって、この過程が行われます。この過程は本来一つであり、キリストの奥義に与る最初の秘跡的な歩みです。それによって信じる人は神の子らとなり、キリストの死と復活に参加し、聖霊の賜物を戴いて、信じる人の共同体に加わるのです。

- ① **洗礼の秘跡**；洗礼はイエス・キリストの名によって行われる、一回限りの三位一体の洗礼です。諸秘跡の門であり、少なくとも望むことが救いのために必要です。この恵みは自動的ではなく、授かる者の回心と信仰が必要です。また幼児の場合は、共同体の信仰の内に行われます。したがって、幼児の両親の信仰を前提条件としています。洗礼は、人類の救いへの第一です。したがって、キリスト信者は、神の国を宣べ伝える務めを言葉と行いにおいて実践することが望まれます。
- ② **堅信の秘跡**；聖霊の賜物の秘跡であり、これを受けて教会に一層完全に結ばれます。この秘跡は、受洗者を強め言葉と行いによってキリストの証人となり信仰を広め、かつ擁護します。神の霊はすべての生命の源であり、使命を果たすための原動力であるからです。それはイエスが聖霊によって生まれ、聖霊の命を約束するからです。復活されたイエスの賜物は、聖霊であり、霊によって生きる道を示しています。堅信は授かった者に、宣教するための目に見えない力と勇気が与えられます。
- ③ **聖体の秘跡**；この秘跡のうちにイエス・キリストご自身が現存し、捧げられ、食されます。教会は、この秘跡によって絶えず生きかつ成長しています。他の諸秘跡ならびに教会の使徒職のすべての業は、至聖なる聖体と緊密に結ばれ、かつこれに秩序づけられています。キリスト信者は、聖体に対して最大の敬意を払い、この祭儀に積極的に参加し、深い敬虔をもってこの秘跡をしばしば拝領し、至上の礼拝をもってこれを崇敬しなければなりません。なぜならキリスト信者がこの秘跡の中で授かる聖体は、キリストの御自身であり、キリストがその人のうちに働かれるからです。キリスト信者は積極的にこの秘跡に与るよう努めます。

「信徒会館リフォーム・プロジェクトチーム」が発足します！！

5月より下記のメンバーで、信徒会館のリフォームについて検討を始めます。
検討した内容については、小教区評議会に提案し、更に詳細について詰めていきます。

★ 構成メンバー

- ・チーム長： 蛭田
- ・メンバー： 壮年会 折川、 船井
 婦人会 牛尾、 永田
 中高生会 深山、 橋岡
 教会学校 阿部、 吉村
 施設管理部 久本、 飯塚

(敬称略)

宣教を考える集い

私たちは洗礼を受けて、キリストの弟子となりました。
ですから、全世界に福音を宣べ伝えねばなりません。
松村神父と福音宣教について一緒に考えましょう。

日時：5月29日10:00～16:00

対象者：六甲教会の信徒の皆さま

プログラム：お話、祈り、話し合い、ミサ

申込方法：聖堂前のチラシで申し込んで下さい。

会費：500円／一人（昼食代を含む）

（キャンセルは三日前（5/26）までをお願いします）

行事報告

∞∞∞∞∞ 混声合唱団 うみのほし魚崎訪問（3月17日） ∞∞∞∞∞

3月17日(水)、うみのほし魚崎の音楽療法の時間にカトリック六甲教会混声合唱団のコーラスを拝聴し、感動を通り越して圧巻のハーモニーに心酔し、聞き惚れて楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

60 歳以上のご高齢の二十数名の方々が、歌に大切なリズムを真心込めて一節一節をかみ締めるように異体同心で合唱されている姿を拝見して心から感動しました。最後のキリストの歌に至っては、皆さんの熱唱と慈愛のこもった美しいハーモニーにつつまれ、引き込まれ、心が洗われました。本当にありがとうございました。

音楽療法の大切さや音楽が人に与える効用を感じ取りました。やさしいメロディ、美しいハーモニーは、人の脳を刺激し機能年齢を若返らせ、有名な詩人サムエル・ウィルソンの「青春の詩」を思い出され、生涯青春の生命力が湧いてきました。

今日の楽しい音楽会が、私たちうみのほしのみんなにとって、ハッピーリタイアメントの日となり、これからは充実した毎日にしたいと思います。

うみのほし魚崎のみんなの心として、カトリック六甲教会混声合唱団の皆様に心から厚く御礼申し上げます、みんなの感想文とさせていただきます。(施設利用者 男性 81 歳)

うみのほし魚崎にコーラスの方がお越しになると伺い、立派な花までお土産に頂き、嬉しいことでした。団員の皆様方の生の合唱を伺い、歌とは楽しいことだと感激しました。

またその後の時間にお話しをして、握手をして下さり、「アベ・マリア」のアンコールまでありがとうございました。「平均年齢は幾つですか」と伺いましたら、60代から80代の方だとおっしゃいました。皆様よいご趣味をお持ちで羨ましく思われました。

厚く御礼申し上げます。(施設利用者 女性 81 歳)

~~~~~

## 行事報告

∞∞∞∞∞ 聖木曜日（4月1日） ∞∞∞∞∞

## 洗足式への思い

私にとって洗足式は正直なところ、聖木曜日に行われるショウの一つと思っていました。

かといって馬鹿にしているわけではありません。いつも、信徒席からボーッと見ているだけです。つまり他人事と思っていたのでしょう。

“洗足式へ出ませんか？”のお誘いに、やはり“どきっ”としましたが、なぜか何も考えずに“お願いします”と即答しました。たぶん、50年以上も信徒をやっているんだから、そのうちにお鉢が回ってくるだろう、と予想していたのかもしれません。

木曜日の当日になって、“さて、足は両方なのか、片足なのか？ やはり、前もって洗ってきれいにしておかねば。”とか、下世話なことばかりが気になり落ち着きません。さらに、“足を洗う”の解釈は“汚れた足を洗ってきれいにする”“やくざ稼業から抜けてきれいな身になる”、となるわけですからますますキリストから離れてしまいます。これではいけないと思い、ヨハネの13章を繰返し読み、最後の晩餐の席上でイエスが弟子たちの足を洗うことにより、謙譲、愛、犠牲、奉仕の精神をこめられたという教えを再認識しました。そしてポイントは、それを私たちにも実行するよう願っておられることです。

これで少しは落ち着きを取り戻し、洗足式に参列しました。赤松神父の手が足に触れたとき、その温もりに戸惑いました。その温もりは、“私同様にあなた方も洗い合いなさい” “あなたにはいくら

この拙文を書く時がちょうど「世界召命祈願の日」であることは、“洗足の精神を常に念頭に置いた生活をせよ”との召命が下ったものと信じます。 S. F



## 行事報告

### ∞∞∞∞∞ 六甲学院入学記念ミサ（4月7日） ∞∞∞∞∞ ～ 入学の喜びを共に ～

4月7日、朝から嵐のような突風に満開の桜が舞い上がり、その中をこの春、六甲学院に入学した新入生たちが、凛々しく教会の門をくぐった。彼らの受験戦争の休止と新たな挑戦への門出を祝福するには、最高の“しるし”であった。

8時30分、理事長・赤松神父司式によって73期生とご両親を迎えて入学記念ミサが、ここ六甲教会で始まった。緊張と喜びの混じった面持ちの新入生と労苦を共にし、今喜びに満ちたご両親たちは、期待に重ねて理事長の説教に耳を傾けた。

「新入生の皆さん！ご入学おめでとうございます。・・・・・・苦しい受験の時が終わって休むのではなく、また新しい目標に向かって歩み始めて下さい。そして、折角、六甲学院に入学したのですから、只勉強で一番になって優秀な大学を目指すことだけに時間を費やすのではなく、人のためになる自分、人に喜ばれる自分になれることを目指して自己研鑽して下さい」という力強いメッセージが贈られた。

この日、六甲学院に入学した生徒は、187名、その内100名余の新入生が入学記念ミサ（保護者含め約200余名）に参加した。都合で参加出来なかった新入生も六甲学院73期生として“**Man for others（人のための自分）**”の精神をしっかりと育成し、明日の日本を担ってくれることを参加した先生方と共に祈願した。

喜びを共にした幸運な男より



## 行事報告

### ∞∞∞∞∞ 初聖体・祝福式（4月11日） ∞∞∞∞∞

4月11日 いつくしみの主日の10時ミサにて23名の子ども達（初聖体13名 祝福10名）が初聖体・祝福式に与りました。朝から空模様が怪しく心配しましたが、子ども達の晴れ晴れとした気持ち雨が雲を吹き飛ばしたのか、無事に満開の桜の下で記念撮影もできました。今年は子ども達の人数も多く普段からとてもにぎやかなのでどうなることかと思いましたが、本番のとても神妙な面持ち、またミサ後の緊張から解放された子ども達のはじけた笑顔をみていると、ここには確実に神様がいらっしゃるのだと感じられ、これはリーダーたちにもとても大きなお恵みを神さまからいただいているのだと幸せな気持ちになりました。

この教会の教会学校は信者の子どもたちだけではなく、洗礼を受けていない子ども達もたくさん来てくれています。感想文を読んでいると神様はわけへだてなくこの子どもたちにも片柳神父さまがおっしゃられた「愛の風」を送ってくださっているのを感じます。以下にその子ども達の感想文を掲載いたしましたのでお読み下さい。これからも教会のみなさまと一緒にこどもたちの成長を楽しみに、それこそ神様のようにわけへだてることなく見守っていくことが出来ればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

また、初聖体・祝福式に際しお祝いいただきました教会の皆さま、ありがとうございました。心より御礼もうしあげます。  
(2年生担当リーダー：久保 吉村)

### 【 初聖体感想文 】

ご聖体の味は、味はあったけれどおいしくもまずくもなかったです。でもご聖体をいただいてイエス様が自分の体にいてくださってうれしいです。これからも神様を信じて人にやさしくしたいです。

太至

わたしは初聖体をする前すごくドキドキしました。きちんとできるかなとか。けれど初聖体はいつもより、なぜかおもしろかったです。

わたしは姉妹の中で一番下です。わたしはすごくほっとしました。だって家ぞくみんなでごせいたいをいただけるからです。それはとてもとてもうれしいことです。わたしは教会学校で神さまのことをもっともっとしりたいなと思ってます。

神父さまリーダーありがとうございました。

裕心



わたしは今日、はつせい体をうけました。ごミサではせい書ろう読をするのでとてもきん張しました。わたしがろう読したのは、ヨハネのもくしろくです。心をこめてろう読をしました。ごミサの後で、たくさんの人にほめていただきました。しん父さまは「二百点まん点だったよ」と言って下さいました。「いっぱいれんしゅうして、よかったな」と思いました。

はじめてホスチアをいただく時、少しドキドキしました。なぜかという、今朝パパが、「今日晴加の体の中に、イエスさまが入ってくるよ」と言っていたからです。ホスチアをいただいた後、体の中がポカポカしてくるような気がしてきました。とてもうれしかったです。ホスチアの味は、赤ちゃんせんべいみたいでした。そうぞうしていた味とまったくいっしょでした。

ごミサの後のパーティーでは、プレゼントをたくさんいただきました。うれしかったです。

「今までじゅんぴしてきて、良かったな」と思いました。

晴加

### 【 祝福式 】

祝福式でさいしょに歩くのがきんちょうしました。祝福式ですることはわかってたけれど、それがどういうみかわからなかったです。けれども式のとちゅうで神さまに近くなったような気がしました。たくさんの人が来ていて聖歌を歌ったら、みんなが一つになったようでした。

祐輔

### 【 保護者 】

教会学校へ入学して一年をすぎたころ、息子が「洗礼を受けたい」と教会学校の帰り道につぶやきました。二年間ご指導を賜り、復活祭に受洗、翌週に初聖体を授かることができました。本当にありがとうございます。こんな恵みの日がくるとは思っていませんでした。

4月11日初聖体の御ミサ、白衣を着た子どもたちが少し緊張の面持ちでお御堂に入ってきました。名前をひとりひとり呼ばれ、整列し、振り返った姿の子どもたち全員が、喜びと愛であふれていました。いとおしくて胸がいっぱいになりました。神様のこどもたちがそこに並んでいました。聖体拝領した子どもは、かわいらしい顔を見合わせて、なんともいえない顔。

「洗礼を受けたい」とつぶやいたそのときも、先日の初聖体の日も、やさしく風がふいていました。この喜びと祝福をわすれずに、神様のいぶきを身近に感じながら歩み続けることができますように。

美弥

3歳でキリスト教の幼稚園に通いはじめた娘の心には、自然に神様が入っていました。主人も私もキリスト教の信者ではないので、我が家には「神様」といえば、初詣は神社、お葬式は仏教、いろいろな宗教で囲まれつつも、その教えを考えるということはありませんでした。

そんな娘が幼稚園に通い始め、幼いなりに神様、イエス様、マリア様を考えたり理解しようと、家でたくさん話をしてくれました。私には、とても新鮮で、娘にも教えられ、自分でも本を読んだり、時には幼稚園にいらしたシスターにお話を伺ったりとキリスト教へのアプローチが始まりました。

小学校もキリスト教です。幼稚園のとき以上に、知識も増え、宗教の授業などで覚えたことを話してくれます。そして、その教えを通して娘の心の成長も感じています。

今回、祝福を前に「十字架の道行き」を親子でたどりました。その日は朝から娘のことを叱ってしまい、教会に向かいました。一つ一つの道行きをたどりながら、自分の気持ちを反省し、心がスーとした感じがしました。

今、娘は「私も信者になりたいな」とよく話しています。理由は、パンが食べられるから(笑)私は、「自分でよく考えられる中学、高校生になって、それでもキリスト教の教えを受け入れることができるようになってから」とよく話しています。

祝福は、娘と私にとって、いろいろなことを考えるきっかけになりました。これからも娘を中心に、私そして主人もキリスト教の教えのよいところをたくさん受け入れ、家族で考えていきたいと思います。

リーダーはじめ、教会のたくさんの方々が初聖体・祝福式の日のためにいろいろ準備をしてくださいました。本当にありがとうございました。

亜子



## みんなの広場

### 春爛漫

春爛漫、花の下には人があふれ、花の下の宴に一時憂さを忘れる。

今年の御復活祭は春爛漫、しかしここで花の下に人影はなく、花の下に宴を催す人もいない。通りがかりに中を覗く人はいても入って花を愛でる人はいない。入っても人々が屯する場所はない。

かつて主は常に人々に取り囲まれていた。どんな男か見てやろう、病気を治してくれる、あいつは邪魔だから殺してやろう、大部分はそんな連中だった。それでも主はいつも人々の中におられた。

信者と称するなにがしかの人が訪れるが、主の前は素通りするばかりである。

神は何のためにこの場所を設けられたのだろうか。

ヨハネ榮之助

## 各部だより

### ☞三日月会

昨年の秋、堀川さんから「三日月会の世話役をやってくれないか・・・」と言われて、まだ69歳だった私は思わず「うっそー！！」と叫んでしまいました。第1日曜日の喫茶コーナーでお世話をして下さる方々には本当に心から感謝し、おいしいご馳走を楽しい雰囲気でも頂きながらも、ずうっと長い間「三日月会」は自分にはまだまだ縁のない遠い世界と思っていましたから・・・。

お断りし続けていたのですが、堀川さんが任期半ばで健康上の都合と言われて、残りの期間を引き継ぐことにして会長の大役をお受けしました。沖原先生、馬場さん、堀川さんへと素晴らしい先輩方のお陰で、「三日月会」は六甲教会にとってなくてはならない立派な親睦団体になりました。神戸地区でもほかにはあまり例を見ません。

私が会長になっても難しいことは一切しません。出来ません。今まで通り親睦第一で仲良くやりましょう。青年会も壮年会も、婦人会もみんな最後は「三日月会」ですが、「三日月会」になったから壮年会や婦人会をやめますとは言わないように、各会と交流をやりましょう。一例として「三日月喫茶コーナー」でお手伝いして下さる若い人を募集します。第3月曜日の例会が楽しみになるように、ビデオ観賞や典礼聖歌の唱歌や卓話など、ごミサの後の集いをみんなで盛り上げましょう。ご意見がありましたらぜひお知らせ下さい。

元気な方は専門部会でも大活躍しておられますが、いつまでもその状態が続くとは限りま

せん、地区会にもご協力いただき、「ベタニア会」とも連携をとりながら、人生のフィナーレを神の栄光のうちに迎えることが出来るように「三日月会」は願っています。  
(鈴木)

### ☞婦人会

5月7日(金) 初金ミサ後、2009年婦人会総会  
総会後、地区トップ会

5月28日(金) 婦人会遠足

行き先：カトリック倉敷教会～美観地区

※既に配布しました2010年連絡網に添付の  
行事予定とは日程に変更があります。

ご注意下さい。

### ☞青年会

5月9日(日)12:00 分かち合い  
14:30 助任司祭室

5月23日(日)12:00 分かち合い  
14:30 助任司祭室

### ☞社会活動部

5月7日(金)婦人会総会後 連絡会開催予定

### ☞教会学校

5月1日(土) 通常  
8日(土) 通常  
15日(土) 通常  
16日(日) 遠足  
22日(土) 通常  
29日(土) 休み

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．

## 《お知らせ》

### 【社会活動部より】

#### 5／16(日)10:00 詩の輪読会(第3会議室)

平和旬間行事の「ピアノ弾き語りコンサート」の詩を輪読致します。  
どなたでも参加ご自由です。

#### 5／16(日)10:00 ミニ・バザー(イグナチオホール)

お弁当・手芸品等の販売

#### 5／20(木)14:00 ベタニアの集い(イグナチオホール)

聖体拝領式と茶話会

5/29(土)10:00 炊き出し（イグナチオホールお台所）

小野浜グラウンドにて、配食やおじさん達のお話し相手だけでもOKです。

## 六美会（絵画サークル）よりのお知らせ

六美会では2010年5月21日(金)～6月3日(木)まで、  
イグナチオホールにおいて作品展を開きます。

信國睦子先生のご指導のもと、会員一同が心を込めて描いた作品です。  
是非ご覧下さい。

なお、毎月第3金曜日の10時～12時まで、第1・2会議室にて活動しています。

興味のある方はもちろん、  
絵はちょっと苦手と思われる方も、  
教室を覗いてみて下さい。  
大歓迎いたします。

## 📖 図書紹介

### 「ユダヤ人の歴史」

ポール・ジョンソン著（徳間書店）

日本人として、極東の島に住む私達でさえ、今日では海外旅行をした時、映画を観ている時等、少なからず気がつくユダヤ人の存在です。特に私達キリスト教徒にとっては、主から選ばれた民族が今どのように生きているか、又、歴史の中でどのように生きてきたかという事はとても気になります。一般によく知られているナチのユダヤ人虐殺が全てなののでしょうか。ヨーロッパの人々の中でもイエス様がユダヤ人であったことさえ知らない人も多くいると言われるそうです。

この「ユダヤ人の歴史」を著したイギリス人ポール・ジョンソンは、キリスト教の歴史は2000年であるが、ユダヤ民族の歴史はアブラハムから数えると倍の4000年、ユダヤ教とキリスト教は全く別の物と思っていたのに律法、祭儀等キリスト教はユダヤ教の上に出来上がったものだということに気づき、とても興味を覚えてユダヤ人の歴史を書こうと思い立ったそうです。

この書は、選民の誕生、古代イスラエルの登場、離散と放浪の中世の暗闇時代、離散先の諸国で受けた栄光と迫害から恐怖の時代を経て現代のイスラエル建国に至るまでの4000年の雄大なスケールでの歴史を描いたものです。

私はこの書でユダヤ人の歴史全てを著しているとは思いませんが少なくとも大まかな流れを知ることが出来るように思います。馴染み深い科学者や文学者等々、そうなんだと納得する記も多いです。聖書だけでは理解しきれないことも少しは理解できるかも知れません。そして何よりもやはりユダヤ人は人類の代表として選ばれた民族なのだと気付かされます。（折川）

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．

### 「マザー・テレサは生きている カルカッタからの報告」

片柳弘史著（教友社）

「私があなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい。」というイエス・キリストの言葉を実践されたマザー・テレサの活動に感激し、15年前に愛を必要とする人達にご自分を捧げられたマザーが働いておられる神の愛の宣教者会へ行き、マザーと出会い、心を開かれた神父様の様子を察するこ

そして今回のカルカッタの旅は、マザーに司祭になりなさいと言われ、そのとおり神父になられ、六甲教会の司祭として信徒の人を伴って、多くの思い出があるカルカッタに滞在されました。滞在3日目の誕生日の朝ミサの描写は読んでいくうちに片柳神父様の緊張と懐かしい人達との出会いで喜びが伝わってくるようでした。神父様にとって大切な日が一日加わった事でしょう。

マザー・ハウスでのこの旅最後のミサは、マザーのお墓の前でのお祈りでした。神父様は「清い心は神を見る事ができる」というマザー・テレサの言葉を引用されて、私達の心の在り方を示して下さいと言葉を話され、「いつも神の方向に目と心を向けて、神の愛を人々に伝えていく事ができるのです」とお説教されました。

~~~~~

(ハンガリーからの伝言)



ベーキ神父は 1997 年ハンガリーへ帰国し、黙想の家で霊操指導をしながら大勢のハンガリーの人々の信仰生活をサポートしている。彼の話によると現在、ヨーロッパは種々の問題を抱えているとのこと。特に、原理主義と急進主義（両極端の諸派）のグループに混乱されているとの事である。「こんな時代こそキリスト信者は、揺るぐことの無い信仰を育まなければならない」と話した。

原理主義と急進主義に惑わされない健全な信仰を深めるには、信者同志しっかりとした“つながり”の輪を築くことが大切ある。何故ならその“つながり”は、キリストに結ばれた絆が揺るぎない信仰共同体を構築するからである。

主任司祭 松村信也



マザー・テレサ生誕 100 年記念写真展

「マザー・テレサは生きている」

お礼とご報告

3月25日から15日間にわたって行われた神戸新聞ギャラリーでのマザー・テレサ生誕100年記念写真展が、4月8日無事に終了いたしました。実行委員として準備から携わってくださった皆様、会場でボランティアをしてくださった皆様、宣伝に協力してくださった皆様、そして祈りと声援で写真展を支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。お陰様で会場は連日たくさんの方であふれ、会期中の来場者数は4800人を超えました。この写真展を通して神戸の地に撒かれた神の愛の種が芽を吹き、成長していくことを願ってやみません。

片柳弘史神父



教会報6月号の発行は5月30日(日)です。 編集会議は5月23日(日)です。 記事原稿は、5月16日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 松 村 信 也 編 集 広 報 部
--	--